

## UpToDate<sup>®</sup> で知識を update しませんか

忙しい臨床の毎日をバタバタと過ごしていると、医師はともすると今までの自らの経験だけを頼りに、同じことを惰性的に繰り返しがちとなってしまう。ある程度のベテランとなってくると、表面的には患者さんや臨床的問題点にそつなく対応することができるようになり、自分の行っていることを振り返ろうとするきっかけがなかなかつかめなくなる。若いうちは上級医から直接ガミガミ言われるが、年を取ると面と向かって言われることはほとんどなくなってしまう。はじめて遭遇することに対して、医師は自らの「知識」、「経験」、「価値観」で対応する。「経験」と「価値観」はいままでの見聞を含めて自らの身に付いたものとなるが、「知識」に関してはその時点で最新のものを確認することが可能である。しかし、教科書のページをめくるだけの時間的余裕がない、しかも教科書を見ても疑問の解決法がまとめて書かれていない、PubMed を用いてキーワードで検索しても、あまりに関連する文献が多く、何から読めば良いのか分からない……。

UpToDate<sup>®</sup> ってご存じですか？ UpToDate<sup>®</sup> は「臨床で遭遇する疑問に答える」ことを念頭に作られた臨床意思決定支援ツールで、19 の医学専門分野におよぶ 9 千以上の臨床上のトピックス、38 万 5 千以上の抄録、薬剤情報および患者情報を含んだデータベースである。単に関連するオリジナル論文の検索ツールとは異なり、専門家が現時点でのコンセンサスを執筆したレビューである。引用された原著論文には、「クリック 1 つ」でリンクすることができる。現在、東邦大学（本学）の医学メディアセンターが契約し、学内どこからでも医学メディアセンターのホームページの『主な論文検索データベース』にリストアップされている「UpToDate」をクリックすることにより、アクセスが可能である。間もなく学外からもアクセスできるようになる予定である（しかしながら契約金額が高騰し、医学部としては対応に苦慮中）。難点としては英文のレビューということで

あろうか（検索用語は日本語で入力可能）。しかし、特に若手の医師にとっては、英語を読みこなす良いトレーニングとなることが期待される。自分が責任を持つ患者さんの問題解決に関する文章ともなれば、必死に読むこととなろう。

この UpToDate<sup>®</sup> は多くの医学部/医科大学をはじめとした医育機関、さらには医療レベルが高いとされる臨床病院で広く使用されている。本学でも臨床実習開始前の医学部 4 年生に対して、さらには前期臨床研修開始時の新研修医オリエンテーションの機会に、受講者に実際にパソコンを操作させながら医学メディアセンターの担当者に使用法の説明をお願いしている。しかしながら本学における使用頻度は他大学、さらには多くの臨床研修病院と比較して著しく低い。その理由は指導医層がほとんど使用していないからである。本学の医療センター 3 病院においては、エビデンスに基づいた医療を行おうとする雰囲気乏しい、とは決して思わない。しかし、いくつかの臨床研修病院で目にする、研修医が UpToDate<sup>®</sup> で確認しつつ指導医と治療方針を議論する、という光景を本学ではほとんど見ることがないのも事実である。UpToDate<sup>®</sup> を通して本学の医療センター 3 病院の臨床現場がより活性化し、医療レベルがより向上することを心から願うものである。最新の知識を謙虚に学び、自らの医療行為を常に省察し、リサーチマインドの原点である「なぜ」、「どうして」のクエスチョンを大切にすることが東邦大学医学部の将来につながることに信じている。

今後、本学医療センター 3 病院において、医学メディアセンターの担当者のご協力をいただいて「UpToDate<sup>®</sup> 講習会」を数回開催する予定としている。是非ご参加いただきたく、お願いする次第である。

（医学教育センター 教授：並木 温）

DOI: 10.14994/tohoigaku.2016.r048